



近年、大資本の大型スーパーが地方にまで進出して次々と個人商店が閉店し、本町でも日常生活に不可欠な総合食料品店は「フレッシュマートしんたに」一軒となつてしまいました。

今では、多くの家庭がマイカーを所有して大型店で全てが揃う時代です。しかし、日常生活でちよつと不足したものや、個々の都合にあわせた買い物には地元の商店が欠かせま

コープさっぽろとフレッシュマートしんたにが連携 身近なお店で安心してお買い物ができる環境へ

せん。ましてマイカーを使えない高齢者にとって、ここは日々の暮らしを支える重要なライフラインとも言えます。

個人商店の弱みは「売り場面積が小さく、品揃えが少ない」と思われがちですが、その背景にあるものは、資本力に乏しいため、確固とした仕入れルートを確保できないことです。

そこで商工会と町が仲介し、「コープさっぽろ」に仕入れ機能を代替してもらうことになりました。これは、いわゆる「買い物難民」の解消に向けた社会貢献の一環としての取り組みです。これにより、豊富で安定的な供給体制が整いました。

地元商店と顧客、互いに 日々の暮らしを支えあう

社会福祉法人幸福会（米坂京子理事長）では、妹背牛町と秩父別町のグループホーム併せて27名の入所者に介護サービスを提供しています。同会では、食材のほとんどを「フレッシュマートしんたに」でまかなっています。ここで調理を担う平野義明

さんは「急に食材の調達量を変えることがあります。きめ細かに対応していただき助かっています。商品の選択肢が増えるのはとてもありがたい」と期待を寄せます。

町内1区の宮崎清さんは、今年90歳。数日おきにショッピングカートを押して、同店へ買い物に訪れます。「こうして買い物に出かけることが運動になるし、店員さんや他のお客さんとの会話が楽しみ。まちのお店がなくなると本当に困ってしまう」と語ります。



買い物かごの中には、まちの人たちとの「ふれあい」が詰まっています。

妹背牛町が末永く維持・発展していくためには、町民一人ひとりがまちの実情を理解し、共に支えていこうとする意識が大切ではないでしょうか。

STOP 不法投棄

一人ひとりの意識により きれいな妹背牛町の実現へ

町内各所で、不法投棄が目立ち始めています。町民の方からの声により、橋の下や川沿いなどに無数のごみが投げ捨てられているのがわかりました。

不法投棄の増加を受け、町住民課では駐在所と連携し、町内のパトロールを行っています。不法投棄があった場所に目を光らせ、これ以上の不法投棄を許さない狙いです。



撤去されたたくさんのごみ

また4月22日には、日頃のウォーキングコースにごみが散乱していることに気付いた、1区2町内の清水伸治さんの声掛けで、山一線沿いのごみ拾いが

山一線通り沿いのごみ拾いボランティアに参加したみなさん



行われました。ボランティアとして参加したのはホクレン包材勤務のベトナムから来ている外国人技能実習生5名と、役場の職員6名。

町道山一線通りを約一キロ区間に渡りごみ拾いをし、集めたごみはごみ袋13袋分にも上りました。

不法投棄は一人ひとりの意識で減らしていくことができます。住みやすい、きれいな妹背牛町を築いていきましょう。